

Yoshifumi Saito

Naoki Wachi

Ayano Hikawa

教授

齊藤 佳史

和知 尚輝

日川 綾乃

学生

興味に合わせて選択できるプログラムが魅力的です。(和知)

能動的な意欲と謙虚な傾聴が学びを後押しします。(齊藤)

歴史や理論を学ぶと「経済」への理解が深まります。(日川)

生活環境経済学科で
得られる学びを教えてください。

日川) 1年次には「経済」というトピックを、「歴史」や「理論」などを学ぶことによって理解を深めていきました。今まで経済について全く知りませんでしたが、講義で基礎を学ぶだけでなく、グループディスカッションなどの機会を通じて、理解を深めることができました。

齊藤) そうですね。生活環境経済学科では何よりも日常生活に関わる身近な視点から経済学にアプローチする学科です。特に現状・理論・歴史のバランスにも配慮しながら無理のない段階的な学修プログラムを組んでいますので、学びを通して「生活の

質」を改善するための問題発見と解決能力を身につけることができます。

和知) 経済の基本的な部分から学んでいくので、経済に対する知識や思考が徐々に身についている実感がありました。2年次からは自分の興味に合わせてプログラムを選択できるのも魅力的だと思います。

齊藤) 和知さんは社会保障や労働問題に興味があるようですね。都市や地域が抱える問題に取り組みたい、新しい働き方や雇用のあり方を探りたい、社会的課題を解決する企業や組織で働きたい、経済の歴史を学んで検証する目を養いたい、生活環境経済学科は様々な興味に応えられるカリキュラムになっています。

ゼミナール活動について、
研究内容や雰囲気を教えてください。

和知) 近現代のフランスを扱う齊藤先生のゼミナールで、植民地開発の時代まで遡って、現代の移民差別問題の原因を探っています。フランスの社会問題と絡めながら歴史を研究していくことで、今まで雑誌やテレビで見てきたフランスの姿とは全く違う見方ができることが興味深いですね。

齊藤) ゼミ生の皆さんはファッション・芸術・観光から経済・社会問題に至るまで、フランスに関する幅広いテーマを提供してくれます。「学ぶ意欲を大切にしながら、お互い謙虚に耳を傾けよう」という考え方が浸透していて、のびのびと学んでいますね。

日川) 発表や意見を述べる機会が多いため、傾聴する力と同時に自分の考えを発信する力が身につきました。先生が現地で撮った写真や体験談、留学生を通じた交流など、フランスをより身近に体験する機会が多く、貴重な時間になっています。

お二人の今後の目標と教授からの
メッセージをお願いします。

日川) 子育て・労働・介護の面から社会保障の知識を深めたいですね。社会保障を考えるには日本の現状を知り、海外の制度にも目を向ける必要があると思います。それらを踏まえて社会保障を見つめなおし、「生活の質」の改善を図りたいです。

和知) 私は日本の社会保障制度や労働問題などについて学んできたので、これからは世界の諸制度や諸問題の実態も学んでいきたいです。日本社会の現状と世界の現状を捉え、視野を広げて物事に柔軟に対応できるようになりたいと思います。

齊藤) 日川さんや和知さんの自発的で真摯な姿勢は、担当教員として大変嬉しく思っています。本学科での学びは、地域社会での暮らしやすい生活環境づくりを目指したり、昨今の働き方改革や地域活性化などの問題を考えたりする力にも繋がります。「生活の質」の改善に関わる能力を身につけながら自らの人生を切り開き、地域社会にも貢献したいと考えている方々が来てくださることを願っています。

3年
和知 尚輝 さん
Naoki Wachi

齊藤 佳史 教授
Yoshifumi Saito

3年
日川 綾乃 さん
Ayano Hikawa